

事業所名

児童デイ きらきらきっず

支援プログラム【児童発達支援】

作成日

令和8年

4月

1日

法人（事業所）理念		安心と笑顔あふれる場所で、ひとりひとりのペースを大切に。						
支援方針		集団療育で、みんなと一緒に遊びながら（外遊び・ごっこ遊び・レクリエーション等）協力や社会性を育てていく。コミュニケーション力を高め、言葉やジェスチャーで気持ちを伝える力を伸ばす。作業療法士による身体作りで、体の使い方やバランスを整え、日常生活に役立つ力を育てる。						
営業時間		13時	0分	17時	0分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支援内容						
本人支援	健康・生活	手洗い・うがい・歯磨きなどの基本的な生活習慣の定着を目指し、手順を視覚的に提示しながら繰り返し練習を行う。スプーンや箸の持ち方については、個々の発達段階に応じた持ち方を支援し、食事場面で実践できるよう関わる。衣服の着脱については「自分でできる部分」を増やすことを目的に、部分介助から見守りへと段階的に移行する。トイレトレーニングではタイミングを見て声かけを行い、成功体験を積み重ねながら自立につなげていく。						
	運動・感覚	バランスボールやトランポリンを用いた活動により、前庭感覚や固有受容覚への働きかけを行い、身体の使い方の向上を図る。作業療法士の視点を取り入れ、姿勢保持や体幹の安定を意識した身体づくりを行う。外遊びではブランコや砂遊びなどを通して多様な感覚刺激を経験し、感覚統合を促す。動物模倣などの粗大運動により全身運動を取り入れ、指先を使った微細運動（紐通し・つまみ動作等）も組み合わせることでバランスよく発達を促す。活動前後にはストレッチを取り入れ、身体の緊張緩和にも配慮する。						
	認知・行動	一日の流れや活動の見通しが持てるよう、スケジュール表やタイマーを活用し「始まり」と「終わり」を視覚的に理解できるよう支援する。遊びの中では、マッチング・パズル・積木・簡単な神経衰弱などを取り入れ、集中力や記憶力、問題解決力を育てる。絵カードを活用し視覚的に情報を提示することで理解を深めるとともに、感情カードを用いて「嬉しい・悲しい・怒る」などの感情理解を促し、自分や他者の気持ちに気づけるよう支援する。						
	言語 コミュニケーション	挨拶や日常会話のやり取りを繰り返し行い、場面に応じた言葉の使い方を身につける。絵本の読み聞かせでは内容理解を促し、簡単な質問や感想を伝える機会を設ける。ジェスチャーゲームを取り入れ、「ありがとう」「ごめんね」などの表現を身体と言葉の両方で学べるよう支援する。また、あいうべ体操や口腔体操を取り入れ、発音や口の動きの発達を促す。						
	人間関係 社会性	挨拶や返事の習慣を身につけるとともに、順番を待つ・ルールを守るなどの社会的スキルを、ゲームや集団活動を通して身につける。友達との関わりでは遊び方を具体的に伝え、貸し借りや声かけなどのやり取りを経験できるよう支援する。トラブル時には職員が仲立ちし、相手の気持ちに気づけるような声かけを行いながら、適切な関わり方を学べるよう関わる。						
家族支援		毎日支援終わりに写真の送付、連絡帳に様子を記入 精神的サポート・ラインやメール・連絡帳・電話にて随時相談受付 保護者会等で交流を深める			移行支援		個別支援計画の見直し・子供の特性や支援ニーズを共有・見学、体験の機会を設ける・保護者の疑問や不安に丁寧に答える・家族での取り組み共有・新しい環境でのフォロー（様子を見ながら負担軽減等を行う）	
地域支援・地域連携		公園で地域の人たちとの清掃活動に参加する 地域のボランティア活動に参加			職員の質の向上		定期的な研修の実施（基本的な障害特性についてや癲癇時の研修など）・資格取得の支援・見える化シートや気づきシート、モニタリングシートを用いて児童の様子を観察する力を養う・1日2回のミーティングで情報共有の徹底・ストレスチェックによるメ	
主な行事等		お花見・夏祭り・プール遊び・ハロウィン・紅葉・クリスマス・保護者会・防災訓練・音楽会・クッキング・卒業お別れ会・七夕・節分・おでかけ・BBQ・エナジー展・誕生日会・お正月						